

東京都立大学 学術集会等開催支援 成果報告書

| | | | | |
|--|-----------------------------|---------|--------|---|
| 報告者 (申請者) | 所 属 | 人文科学研究科 | 職 名 | 教授 |
| | 氏 名 | 西山 雄二 | e-mail | nishiyama.tmu@gmail.com (メールを送信される場合は●を @に変換してください) |
| 学 術 集 会 名 | 日仏哲学会 秋季大会 | | | |
| 開 催 会 場 | 東京都立大学南大沢キャンパス（1号館）およびオンライン | | | |
| 開 催 日 時 | 2021年9月10日（金）-12日（日） | | | |
| 開催概要・成果等 | | | | |
| 1. プログラム・内容 | | | | |
| <p>2021/9/10（金）18:00-20:30 講演会「カトリーヌ・マラブーの哲学」 講演者：Catherine Malabou（イギリス・キングストン大学、教授）司会：西山雄二 第1部 カトリーヌ・マラブー講演 「抹消された快樂 クリトリスと思考」 コメント：郷原佳以、中村彩 第2部 共同討論 「カトリーヌ・マラブーの可塑性の哲学」 鶴飼哲、増田一夫、星野太、佐藤朋子、藤本一勇、宮崎裕助、小川歩人 *フランス語使用、翻訳配布、通訳有(渡名喜庸哲、馬場智一) 企画運営：脱構築研究会／後援：東京大学「共生のための国際哲学研究センター」(UTCP) マラブーは独仏哲学と脳科学の対話を通じて独自の脱構築思想を展開する哲学者である。2007年に来日講演を実施して以来、今回は2度目の日本での催事となる。前半は著書『抹消された快樂：クリトリスと思考』をめぐる講演会をおこない、後半はマラブーの哲学をめぐる研究者らとの自由討論をおこなった。</p> | | | | |
| <p>2021/9/11（土） 9:20-13:00：一般研究発表 8本の発表 15:00-18:00：シンポジウム「哲学者の講義録を読む」 発表者：藤田尚志（九州産業大学、教授）、酒井麻依子（筑波大学、特別研究員）、八幡恵一（関東学院大学、専任講師）、西川耕平（文京学院大学、非常勤講師）、西山雄二 近年、哲学者の講義録が続々と刊行されており、日本でも翻訳が出揃っている。現代の哲学者は教育者でもあった。彼らは公刊された著作とは異なる、いかなる教育実践をおこなっていたのだろうか。本シンポジウムでは、教育の現場に立つ哲学者の姿に着目し、互いに比較・考察をおこなう。</p> | | | | |
| <p>2021/9/12（日）17:00-18:30 「デジャヴと記憶——ベルクソンと現代記憶哲学」 講演：ドニ・ペラン氏(Denis Perrin)（グルノーブル大学教授 記憶の哲学センター）「デジャヴについての新ベルクソン主義的見地」 応答者：平井靖史（福岡大学、准教授）、原健一（北海道大学、博士研究員） 企画運営：PBJ (Projet Bergson au Japon) 人生のある瞬間が繰り返されているような経験、デジャ体験は多くの興味深い哲学的な問題を提起している。本講演では、存在論的な問題、すなわち、そのような経験の多様性について未だに解決されていない問題に取り組む。デジャ体験について満足のいく説明をするには、神経認知心理学が記憶について教えてくれる成果を考慮して、「デジャヴ」と「デジャベキュ」の体験がどのように違うのかという問題を論究する。</p> | | | | |
| 2. 参加者（参加者数、参加者所属・職位等） | | | | |
| <p>1) 参加者数 のべ536名 9/10 「カトリーヌ・マラブーの哲学」269名 9/11 一般研究発表 63名 シンポジウム「哲学者の講義録を読む」158名 9/12 「デジャヴと記憶——ベルクソンと現代記憶哲学」46名</p> | | | | |

「カトリーヌ・マラブーの哲学」「哲学者の講義録を読む」は一般公開されていたため、学会員だけでなく、かなりの数の一般参加者も含まれている。

2) 参加者所属・職位等（主要な参加者のみ）

・本学教員

西山雄二（東京都立大学、教授）、木田直人（東京都立大学、准教授）

・海外研究者

Catherine Malabou（イギリス・キングストン大学、教授）、Denis Perrin（グルノーブル大学、教授）

・登壇者

郷原佳以（東京大学、准教授）、中村彩（リヨン第二大学、博士課程）、鶴飼哲（一橋大学、名誉教授）、増田一夫（東京大学、名誉教授）、星野太（東京大学、准教授）、佐藤朋子（金沢大学、准教授）、藤本一勇（早稲田大学、教授）、宮崎裕助（専修大学、教授）、小川歩人（大阪大学、博士課程）

藤田尚志（九州産業大学、教授）、酒井麻依子（筑波大学、特別研究員）、八幡恵一（関東学院大学、専任講師）、西川耕平（文京学院大学、非常勤講師）、

平井靖史（福岡大学、准教授）、原健一（北海道大学、博士研究員）

・理事会執行部

安孫子信（法政大学、教授）、香川知晶（山梨大学、名誉教授）、檜垣立哉（大阪大学、教授）

杉村靖彦（京都大学、教授）、合田正人（明治大学、教授）、津崎良典（筑波大学、准教授）

・視聴者側

Darin Tenev（ブルガリア・ソフィア大学、准教授）、Evgeny Blinov（ロシア科学アカデミー哲学研究所、協力研究員）、ほか。

3. 成果

・学術的な成果

日仏哲学会（Société franco-japonaise de philosophie）は、フランス哲学・思想に関心をもつ研究者たちのために、共同研究の場を設け、フランス哲学・思想の研究、ならびに日仏両哲学界の交流を促進することを目的とする学会である（<http://sfjp-web.net/>）。今回、3日間の学会を通じて、フランス思想に関するさらなる研究交流の機会を得て、国際的な研究を進展させることができた。

「カトリーヌ・マラブーの哲学」では、最新著『抹消された快樂』をめぐって、フェミニズムと精神分析の関係、セクシャリティの幼年期と成熟といった問いについて議論することができた。討議では、存在と生の問い、精神分析と脳科学、生と権力における脳のアナーキー性、快樂とファロス中心主義、脳の中毒とエコロジー、レジリエンスと喪の可塑性といった主題で次々と議論を深めることができた。

「哲学者の講義録を読む」では、ベルクソン、メルロ＝ポンティ、フーコー、ドゥルーズ、デリダの講義録をもとに、教育と研究の相違、話すことと聴くことの教育法、教育的語りのリズムや調性、ソクラテスの産婆術を範とする真理の教示法、研究教育制度への哲学的な問いなどを、論究することができた。

「デジャヴュと記憶——ベルクソンと現代記憶哲学」では、ベルクソン哲学に基づいて、デジャヴュ経験の特異性が示され、繰り返し（デジャ）の概念や予知機能といった特性が論じられた。

・ハイフレックス式の成功

当初は対面を主とするハイフレックス形式での実施を予定していたが、感染症拡大のため、大半をオンラインに切り替えた。ただ、シンポジウム「哲学者の講義録を読む」については、会場に発表者だけ集めて、生配信の形でおこなった。本学会は昨年はオンライン形式だったが、今回初めてハイフレックス式での実施を成功させた意義は大きい。

当初は210名の参加を見込んでいたが、実際は536名と予定された参加者数を大きく上回ったことも評価できる点である。

・動画による成果報告

「カトリーヌ・マラブーの哲学」「哲学者の講義録を読む」については、適切に編集されて、動画が公開されている（<https://youtu.be/IPaJXIRggYQ>, <https://youtu.be/P7F9dTsvq14>）。数多く視聴されており、学会の成果を動画形式で保存・公開することの重要性を再確認した。

・文字媒体での成果報告

「カトリーヌ・マラブーの哲学」については、本学の紀要「リミトロフ」にて、2022年3月に公刊される。その際、本大会へのフィードバックとして、何人かの研究者の原稿も併載することで、成果に厚みをもたせる。また、脱構築研究会のHP <https://www.comp.tmu.ac.jp/decon/cn6/pg1031.html> では、すでに報告文が掲載されている。

「哲学者の講義録を読む」については、機関誌『フランス哲学・思想研究』にて2022年9月に公刊される。